

## 事後評価結果（平成30年度）

担 当 課：九州地方整備局 道路部 道路計画第一課  
担当課長名：野村 文彦

<b>事業名</b> 一般国道226号 <small>ひらかわ</small> 平川道路	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 九州地方整備局
<b>起終点</b> 自：鹿児島県鹿児島市平川町字高落 至：鹿児島県鹿児島市平川町字瀧ノ下		<b>延長</b> 2.3km

**事業概要**  
平川道路は、延長2.3km、4車線の事業であり、平成9年度に事業化し、平成25年度に完成4車線で開通している。

**事業の目的・必要性**  
本事業は、国道226号の交通混雑の緩和や交通安全性の向上等を目的とした事業である。



<b>事業の効果等</b>	<b>事業期間</b>	事業化年度：H9年度 都市計画決定：H12年度	用地着手：H13年度 工事着手：H13年度	供用年 (暫定/完成)	(当初) —/H25 (実績) —/H25	変動	1.00倍
	<b>事業費</b>	計画時 (暫定/完成)	(名目値) — / 112億円 (実績値) — / 127億円	実績 (暫定/完成)	(名目値) — / 112億円 (実績値) — / 127億円	変動	1.00倍
	<b>交通量</b> (当該路線)	計画時 (暫定/完成)	将来交通量 (H42) —/19,700~20,300台/日	実績 (暫定/完成)	—/19,300台/日	変動	95~98%
<b>旅行速度向上</b> (現道→当該路線)		16km/h → 55km/h (供用前年次)H11年度 (供用後年次)H30年		<b>交通事故減少</b> (現道→当該路線)		26件/年 → 9件/年 (供用前年次)H10~H12年平均 (供用後年次)H26~H28年平均	
<b>費用対効果分析結果</b> (前回再評価)		B/C : 1.6 総費用 : 130億円 (事業費: 123億円, 維持管理費: 6.9億円)		総便益 : 205億円 (走行時間短縮便益: 191億円, 走行経費減少便益: 9.2億円, 交通事故減少便益: 5.0億円)		基準年 : 平成24年	
<b>費用対効果分析結果</b> (事後)		B/C : 1.6 総費用 : 169億円 (事業費: 160億円, 維持管理費: 8.2億円)		総便益 : 268億円 (走行時間短縮便益: 255億円, 走行経費減少便益: 11億円, 交通事故減少便益: 2.2億円)		基準年 : 平成30年	
<b>事業遅延によるコスト増</b>		費用増加額 : 一億円		<b>便益減少額</b>		一億円	
<b>事業遅延の理由</b> 特になし							

事業の効果	客観的評価指標に対応する事後評価項目 <ul style="list-style-type: none"> <li>円滑なモビリティの確保。(国道226号の渋滞損失時間の削減：削減率約10割)</li> <li>安全で安心できるくらしの確保。(三次救急医療施設へのアクセス向上：指宿市～鹿児島市立病院(約5分短縮))</li> <li>地球環境の保全。(CO<sub>2</sub>排出削減量：約1,745t-CO<sub>2</sub>/年)</li> </ul> <p style="text-align: right;">他9項目に該当</p>
	その他評価すべきと判断した項目 <p style="text-align: center;">—</p>
事業による環境変化	環境影響評価に対応する項目 <p>環境影響評価の対象外事業である。</p>
	その他評価すべきと判断した項目 <p>当該区間の騒音値は、環境基準値を満足している。(昼間：75dB→65dB、夜間：70dB→63dB)</p>
事業評価監視委員会の意見	審議の結果、事業の効果が発現しており、当該事業に関しては今後の事後評価及び改善措置は必要ないとした事業者の判断は妥当である。
事業を巡る社会経済情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>沿線地域(指宿市・南九州市・南さつま市・枕崎市)の人口は減少傾向にあるが、一世帯あたりの自動車保有台数は鹿児島県や九州全体よりも増加傾向にある。</li> <li>当該道路の交通量は、近年横這いの傾向となっている。</li> </ul>
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業目的に見合った事業効果の発現が確認されており、更なる事後評価の必要はない。</li> <li>平川道路の整備により「交通混雑の緩和」「交通安全性の向上」「安全な歩道空間の確保」について一定の効果が得られており、また、観光振興といった波及的効果にも貢献している。これらのことから、当面の改善措置の必要はない。</li> </ul>
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>平川道路は、国道226号の交通混雑の緩和や交通安全性の向上等を図る事業であり、特に平川交差点、産業道路南口交差点においては、郊外部と都市部の交通が流入するため、慢性的な交通混雑が生じていた。</li> <li>このため、平川交差点の右折レーンの設置や産業道路南口交差点側の鹿児島市街地向きの車線を拡幅するなど、部分供用を行いながら課題が顕著な箇所の交通混雑の緩和を図った。</li> <li>区間延長が比較的短い事業の中でも、現道の課題が大きい区間を優先して供用を行うことで、より早期に事業効果を発現できる供用形態を想定して事業計画を立案し、事業を推進することが重要である。</li> <li>事業評価手法について、見直しの必要性はない。</li> </ul>
特記事項	特になし。

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。